

# 東日本支部だより

2023 年 3 月 5 日発行

Newsletter of the East Japan Chapter, the Society for Research in Asiatic Music

【注意！】次号(第 62 号、6 月発行)を最後に、『東日本支部だより』は紙媒体の印刷・郵送を停止します。詳しくは、「東日本支部委員会からのお知らせ」(6 頁)をご覧ください

## 今後の例会予定

### 第 132 回 定例研究会

2023 年 3 月 11 日(土)

対面とオンラインによるハイブリッド開催

卒論・修論発表

### 第 133 回 定例研究会

2023 年 4 月 8 日(土)

対面とオンラインによるハイブリッド開催

卒論・修論発表

### 第 134 回 定例研究会

2023 年 6 月 3 日(土)

オンライン、またはハイブリッド開催(決定次第、ウェブサイトにてお知らせします)

博論発表

※詳細は下記↓↓↓(■定例研究会のお知らせ■)をご覧ください。

## ■定例研究会のお知らせ■

### ◆東日本支部 第 132 回定例研究会

時 2023 年 3 月 11 日(土) 13:00~16:40

所 大正大学 2 号館 6 階人文学科閲覧室とオンライン会議

システムの Zoom を使用して開催

※初めて Zoom 例会に参加される方へ:

参加には Web カメラとマイクのついた PC、またはタブレット、スマートフォンなどが必要となります。

参加方法 事前申込制:対面・オンライン問わず、東洋音楽学会東日本支部のウェブサイトから事前に参加をお申し込みください。

<http://tog.a.la9.jp/higashi/index.html>

申込締切 3月8日(水)

ミーティングコード等は3月10日(金)にお送りいたします。

※なお、本例会は当日に発表、質疑応答ともにおこないません。



## ○卒業論文発表 (その 1)

1. フラメンコにおける精髓の在処とプーローバイレの身体経験に伴う精神性の分析を通した一考察—

小田口 桜子(東京藝術大学)

2. 東京音楽学校へのトニック・ソルファ法の導入とそれが定着しなかった要因の考察

井原 祐馬(東京藝術大学)

## ○修士論文発表 (その 1)

3. 北村季晴のお伽歌劇《ドンブラコ》についての研究

赤井 とも香(お茶の水女子大学大学院)

4. 1920～30年代のハーモニカ音楽の編曲をめぐる議論  
と実践 —機関誌『ハーモニカニュース』を例に—

石橋 美悠 (お茶の水女子大学大学院)

5. フェラ・アニクラポ・クティの 1980 年代の楽曲中におけ  
るコーラス・セクションの役割

井上 環 (東京藝術大学大学院)

6. 日中映画音楽における民族楽器から見た民族性の探  
求 —20 世紀後半を中心に—

曾 煜媛 (東京音楽大学大学院)

7. 関東大震災の復興に関連した音楽の動向 —演奏会・  
公演と歌の創作を中心に—

高津 萌子 (東京藝術大学大学院)

8. 戦前における能楽界と教育界の接点 —1930 年代の  
旧制中等学校を中心に—

原田 笑加 (東京藝術大学大学院)

<http://tog.a.la9.jp/higashi/index.html>

申込締切 4月1日(土)

ミーティングコード等は4月7日(金)にお送り  
いたします。

※なお、本例会は当日に発表、質疑応答ともにおこないます。



### ○卒業論文発表 (その2)

1. 大嘗祭における風俗歌舞の地方伝承と保存について  
—金刀比羅宮の「讃岐風俗舞一具」を中心に—

牧野 友香(東京藝術大学)

2. 日光例幣使海道に伝わる群馬・栃木の盆踊り口説と  
「八木節」の比較 —全体構成、唄の節・リズム、笛の旋  
律に着目して—

吉野 日奈子(東京藝術大学)

### ○修士論文発表 (その2)

3. 浜松地域における中小ピアノメーカーの軌跡 —アト  
ラスピアノ製造を事例に—

倉地 真梨(静岡文化芸術大学大学院)

4. 横浜華僑による獅子舞の伝承と変容

馮 陳玥兒(東京音楽大学大学院)

5. 日本の尺八製管の伝承 —竹仙系工房と田畑工房を  
中心に—

解 桐(東京藝術大学大学院)

6. 1920～30年代の新民謡運動における「民謡」再考  
—作曲家の創作理念と活動にみる「国民性」の発見と  
その表出をめぐって—

長谷川 由依(東京藝術大学大学院)

7. 明治10年代から40年代における薩摩琵琶楽の形成  
と展開—家元制度の導入に注目して—

稲田 一陽(東京藝術大学大学院)

## ■定例研究会のお知らせ■

### ◆東日本支部 第133回定例研究会

時 2023年4月8日(土) 13:00～16:15

所 東京大学駒場キャンパスと、オンライン会議システムの  
Zoom を使用して開催

会場となる教室は、決まり次第、東洋音楽学会東日本支部の  
ウェブサイトにてお知らせします。

※初めて Zoom 例会に参加される方へ:

参加には Web カメラとマイクのついた PC、またはタブレッ  
ト、スマートフォンなどが必要となります。

参加方法 事前申込制:対面・オンライン問わず、東洋音楽学  
会東日本支部のウェブサイトから事前に参加をお申し込みく  
ださい。

司会 ヘルマン・ゴチェフスキ (東京大学)

## ■定例研究会の報告■

### ◆東日本支部 第130回定例研究会

時 2022年12月3日(土) 14:00~16:30

所 Zoomによるオンライン開催

司会 海野るみ(南九州短期大学)

#### <研究発表>

##### 1. 芸の転換

###### —上七軒楓錦会の誕生—

中原 逸郎 (楓錦会)

(発表要旨)

本発表は、花街芸能の転換の背景を探ることを目的とした。

花街(花柳界と同義)は、舞踊等の芸で顧客をもてなす芸妓町で、三味線音楽の進展とともに発達した。花街は芸の継承の課題を解決し、今日まで文化を継承してきたが、大正期の上七軒(京都市上京区)楓錦会の誕生も芸の継承と密接な関係があった。

上七軒は篠塚流を継承してきたが、明治末期に同流が衰退すると、花柳流(東京)に芸を転換した。その導入期は、楓錦会の活動に注目すると1917(大正6)年の温習会プログラムも存在し、大正初期に遡ることができる。楓錦会の大正期のプログラムの演題を比較し、上七軒の出し物を確認した結果、従来上演されていた義太夫等に加え、長唄の演題が確認でき、楓錦会が長唄を得意とした花柳流の芸の導入の役割を果たした可能性を指した。

聴取者からは①大正から昭和初期に新たな芸に対する要求があった可能性に関する質問があり、この時期のモダニティ(西洋化)と上七軒の主な顧客であった西陣織維業者の新奇性について説明を補足した。また、②先斗町(京都市東山区)と上七軒の芸との比較で①によって知

見を得られるのではないかと指摘があり、大正期に大阪花街で起こった芸のモダニティと先斗町等京都花街の受けた影響(中原、2015:近畿都市学会)を元に説明したが、再度詳細に比較調査したい。③引用資料「三階松文庫」が発表者個人蔵であると回答した。

(傍聴記:笠井純一・笠井津加佐)

中原報告は、まず上七軒の映像紹介から始まった。その後、1.序、2.上七軒の芸の始原、3.花柳流への転換、4.西陣の隆盛と上七軒と続くが、1~3にはほぼ均等の時間を割いたので多様な事象を知ることが出来た。その反面、論点が拡散し、眼目の篠塚流から花柳流への転換と、楓錦会が果たした役割については、説明不足の感を拭えなかった。

報告者は、大正6年、10年、11年の温習会番組を比較し、長唄の演目が漸増すると指摘するが、花柳流参入にどう結びつくのか明確ではない。分析目的に沿った史料調査が必要であろう。報告者は別稿(参考文献2015C)で、上七軒における最初の花柳流師匠を輔次郎とするが、この人物の動向を追跡すべきではなからうか。楓錦会の組織についても丁寧な説明がほしかった。

フロアから、①大正期の上七軒が新しいものを取り入れた原動力は何か、②同じく新しいもの好きな先斗町と比較して上七軒の特色は何か、という質問が出た。報告者は①について上七軒を支える西陣の先進性を挙げ、②については海外調査も踏まえて今後の課題としたいと応えた。

## 2. 植民地朝鮮における音楽文化のトランスカルチャー

—京城放送局(JODK)音楽番組を事例に—

金 志善 (日本学術振興会特別研究員 RPD・東京大学)

(発表要旨)

京城放送局(JODK)は1927年2月16日に開局し、「報道」「教養」「慰安」を原則としたプログラムを編成していた。特に「慰安」放送では、音楽、漫才、ラジオドラマなども盛り込まれ、中でも音楽プログラムは最も多く編成されていた。ラジオ放送は、既存の音楽の普及、新たな音楽ジャンルの生成、様々な音楽の統合などにより音楽環境の劇的な変化をもたらし、音楽の大衆化においてもその役割を果たした。

京城放送局は、1933年4月26日に日本語と朝鮮語の二重放送が始まる前までは、単一放送で日本人向けのプログラムと朝鮮人向けのプログラムが交互に編成されることによってダイグロシアの環境に直面することになる。音楽プログラムは日本音楽、朝鮮音楽、西洋音楽、大衆音楽、中国音楽などで多様に編成されていた。植民地朝鮮では、近代的消費志向が大衆文化を作り上げており、この時期ラジオを通じた様々な消費文化が生まれていた。人々は映画、ラジオドラマ、漫才などの余暇生活を娯楽として享受するようになり、中でも音楽の場合、新民謡、流行歌のような新たなジャンルが結合し生成する中で、音楽消費が大衆化することにラジオ放送は大きく寄与した。日本による一連の強制的な政治的統制政策や同和政策の影響があるものの、このようなラジオ音楽放送では朝鮮人の音楽文化の自律性が保たれたといえる。このような音楽文化は、当時の朝鮮人の音楽文化生活に大きな変化と発展をもたらしたのである。

本発表では、音楽文化のトランスカルチャーにおいてラジオメディアが持つ意義について考察し、ラジオメディアが植民地朝鮮の音楽社会形成において大きな変化をもたらしたことでその役割を果たしたことを明らかにした。

(傍聴記:山本華子)

本発表は、植民地期朝鮮(1910-1945)における京城放送局(JODK)音楽番組にみる音楽文化の越境の実態に焦点を当てたものである。当時の番組から、朝鮮民謡を日本人が歌い、日本の伝統音楽を朝鮮人が演奏した事例等を挙げ、ラジオメディアによる文化の「再構成・再構築」の側面を明らかにした。なかでも、朝鮮人による筑前琵琶の演奏は、琵琶楽と伽倻琴併唱との類似性、また朝鮮語浪花節の土着化は、浪花節とパンソリとの類似性にそれぞれ起因するとした見方は興味深い。質疑応答では、内地のラジオ放送資料(台本)が管轄の放送局に残されていたという情報提供があり、また朝鮮に語り物としての琵琶の伝承がなかったことも朝鮮人による筑前琵琶の実践を生み出す背景にあったのではないかという意見が述べられた。朝鮮人による日本の伝統音楽の実践にアプローチした研究は皆無に等しい。それゆえに、フロアからの要望にもあったように、朝鮮に伝播した日本音楽と朝鮮音楽との類似性の音楽的解明を加えるなど、本研究のさらなる発展が期待できる。

## ◆東日本支部 第131回定例研究会

時 2023年2月4日(土) 14:00~15:10

所 Zoomによるオンライン開催

司会 前島 美保(東京藝術大学)

### <研究発表>

構造と素材から見るガドゥルカ製作の実態

—「伝統的なもの」とは何か—

玉置 彩乃

(東京藝術大学/ロンドン大学ロイヤルホロウェイ校)

(発表要旨)

本発表では、発表者が2022年9月にブルガリアで実施したフィールドワークで得られた情報をもとに、ガドゥルカ製作の歴史と現状を考察した。さらに、ガドゥルカという楽器が社会的背景や音楽的需要の変遷をどのように反映して発展してきたのかについて検討した。

はじめに、ガドゥルカの構造や歴史の概略を示した。ガドゥルカの歴史にかんしてはとりわけ、社会主義時代とその後における、ブルガリア民俗音楽の文化としての在り方の変化が、ガドゥルカ自体やその演奏習慣、教育体系に大きな影響をもたらしたという背景について取り上げた。

続いて、フィールドワークの報告を行った。アンゲル・ドブレフ氏からは、彼の所有する五つの異なるガドゥルカそれぞれについて、その製作者や素材、サイズやパーツの形状の微妙な差異によって生じている音色の特徴の違いなどを伺った。ピセル・ソコロフ氏からは、彼の使用している楽器の特徴について、その製作者であるイリュ・ディミトロフの人物像、またガドゥルカの改良に大きな影響を与えたキーパーソンとしてアタナス・ヴァルチェフなど複数の音楽家について話を伺った。デヤン・デンチェフ氏からは、彼の現在製作しているガドゥルカの特徴や製作方法などについて話を伺った。そこでは、バンジョーのペグが使用されていることや、現在最も腕の良いガドゥルカ奏者として

評判の高いペヨ・ペエフ氏のアイデアをベースに共鳴弦が六本に減らされていること、また近年実施されている民族楽器職人コンテストについて話を伺った。これらの情報から、社会主義時代にガドゥルカが西洋音楽的な美的基準に基づいて改良され、その改良型が現在も標準型として残っているものの、それと同時に21世紀の音楽シーンに合わせたさらなる改良も試みられていることがわかった。

さらに今回実施したインタビューの内容を踏まえて、ブルガリア民俗音楽における「伝統」の意味に関する考察も行い、社会主義時代の文化政策が今日まで「伝統」の概念に大きく影響を及ぼしていること、また音楽の内容における「伝統」と楽器の「伝統」との間に生じている乖離についても指摘した。

(傍聴記:横井雅子)

本発表は、ブルガリアの民俗楽器の一つである擦弦のガドゥルカに着目し、特に現地調査で実施しているインタビューをも援用しながら、その構造や使用実態を立体的に浮かび上がらせようというものである。

第二次大戦終了の頃までは「村の音楽」の一部を成し、構造的に標準化されていなかったこの楽器は、社会主義時代に西洋の美的基準に基づく変化を経たということだが、その改良期や改良型定着期に具体的に何が起きたのかを知ることが発表者の目的であり、その調査は現在も進行中である。その経過報告と言すべき発表であったが、「標準化されている」というわりに幅があったり、21世紀に始まった民俗楽器職人コンテストなど、国外からはうかがい知ることのできない貴重な情報が含まれていた。とりわけ3人のガドゥルカ関係者への聞き取り調査を通して、「伝統」に対する姿勢、評価にズレが生じていることが指摘された。質疑応答では「伝統」に関わる側面にコメントが集中したが、その再解釈も含んだ議論にまで広がって盛り上がりを見せた。

## ■会員の声 投稿募集■

1. 次号締切: 2023年5月20日 (6月下旬発行予定)
2. 原稿の送り先および送付方法:  
東日本支部事務局  
E-mail: tog.higashi@gmail.com
3. 字数・書式: 25字×8行以内(投稿者名明記のこと)
4. 内容:会員の皆様に知らせたいと思う情報

### (1) 催し物・出版物などの情報

研究会、講演会、演奏会、CD、DVD、書籍出版、展示、見学会などの情報。

### (2) 学会への要望や質問

支部例会、大会、機関誌など、学会に対する感想や要望。

※原稿の採否は「支部だより」担当者にご一任下さい。編集の都合上、お送りいただいた原稿に多少手を加えさせていただきますので、ご了承ください。

(東日本支部だより担当)

## ■定例研究会発表募集 (7月例会)

東日本支部では、会員の皆様による活発な研究活動のため、定例研究会での研究発表を募集しております。

発表をご希望の方は、発表種別(研究発表・報告等)、発表題目、要旨(800字以内)、発表希望月、氏名、所属機関、連絡先(住所、電話、Fax、E-mail)を明記したファイルを添付の上、4月30日までに東日本支部事務局にメールにてお申込みください(tog.higashi@gmail.com)。発表希望を提出後、1週間経ても東日本支部事務局から連絡がない場合には、メール事故等の可能性がありますので、お手数ですが再度ご連絡ください。

なお、2023年7月例会と12月例会は運営の都合によりオンライン開催とする予定ですので、ご了承いただければ幸いです。

## ■東日本支部委員会からのお知らせ■

1. 『東日本支部だより』は、第63号(2023年11月発行予定)より、印刷・郵送を停止し、学会ウェブサイトから配信するのみとなります。学会ウェブサイトより閲覧し、必要に応じてダウンロード、印刷を行なってください。最新号は、学会メーリングリスト(ML)で告知するとともに、そのURLを送信します。学会MLに参加していない方は、支部だよりの郵送停止までに、ぜひご参加ください。以下のフォームでアドレスを登録することで、MLに参加できます。

<https://docs.google.com/forms/d/e/1FAIpQLSfXRYBBgJExN2qUIAkAcMU6BLyOeFVHs2ze2Nt7hJ3x7I6IFQ/viewform>



『東日本支部だより』の郵送継続を希望

される場合は、支部事務局(tog.higashi@gmail.com)に直接ご連絡ください。上記フォームで「郵送を続ける」にチェックを入れた場合も、必ず支部事務局までご連絡くださいますようお願いいたします。

2. 昨年11月の学会総会後、2022・23年度の東日本支部委員会の役員が下記の通り決まりました。支部は新潟、長野、静岡以東の都道府県の範囲の会員で構成されています。皆様からの例会企画、ご意見、ご要望などお待ちしております。支部専用アドレス(tog.higashi@gmail.com)まで、どうぞお寄せください。

【支部長】早稲田みな子

【支部担当理事】横井雅子

【例会担当】

岩崎 愛\*、小尾 淳\*、金光 真理子、神村 かおり\*、鯨井 正子、ヘルマン・ゴチェフスキ、澤田 聖也\*、鈴木 良枝、武田 有里\*、長谷川 由依\*、濱崎 友絵、福田 千絵、伏木 香織、前島 美保、増田 久未\*、山内 弾正\*

【支部だより担当】村治 学\*、森田 都紀

【経理担当】田辺沙保里

【HP、ML、支部共有フォルダ管理】仲辻真帆

(敬称略五十音順、\*=参事)

## ■編集後記■

今月号支部だよりでは、12月と2月の報告をお届けします。東日本支部では、今後も研究発表や企画など皆様からのお申し込みをお待ちしております。本誌での「会員の声」にも情報をお寄せいただき、積極的にご活用ください。次号の発行は6月下旬を予定しております(TM)。

\*\*\*\*\*

発行：一般社団法人 東洋音楽学会 東日本支部

編集：早稲田みな子、横井雅子

村治学、森田都紀

〒110-0005 東京都台東区上野 3-6-3 三春ビル 307号

東洋音楽学会東日本支部事務局

E-mail: tog.higashi@gmail.com

\*\*\*\*\*